

北社会ニュースオ99号

2014年2月18日

発行者： 鈴木壮夫

大雪での被害状況、仙台の感覚ではこんな程度か！かもしれませんね！でも大変すね。

(1) 2月18日(火)開催 第317回 北社会

“麦とホップ” YEBISU “黒ラベル”を次々と呑みながら楽しみ、書いています。

講師：上條 努氏(高24回) サッポロホールディングス(株)代表取締役社長

テーマ：「サッポログループの昨日、今日、明日」 大いに楽しみにしております。

(2) 3月17日(月)開催 第318回 北社会

講師：和賀井敏夫氏(旧制二中42回卒) 超音波診断の創始者そして石巻市名誉市民

テーマ：東日本大震災から三年、故郷の被害を忘れるな！！

2・18 そして 北社会ニュース

緑深い青葉山と清らかな流れの広瀬川にはぐくまれた川内の母校、卒業して55年になりますが私の人生にとってそこは人生の「聖地」です。年に1~2回毎年訪れております。気持ちが落ち着き、青春を思い出し、生きる力を与えてもらっております。三年間の中国・北京駐在から帰国した1988年、日本はバブルの真っ最中で私は大きな違和感の日々を商社マンとして過ごしていました。何とか打開したいと苦闘の日々でした。そんな折り「北社会」の存在を知り、参加させていただきました。そこも一つの「聖地」でした。時が流れ、青山大先輩から北社会の運営を私達に託され勇気を出してお受け致しました。

【2004年2月18日(水)北社会第218回】この日が私達世話人の初日の北社会でした。日記には43名の参加、「雨か嵐か」そして「校歌」を全員で歌い、再スタートとしては“成功”と自己評価しております。2・18という数字は一年の中で貴重な忘れることのできない月日なのです。その折り、私は「青葉山天空トンビ」を記しました。

『私はひとりひとりが「発信・発光」する会に北社会が育って欲しいと強く希望しました。二高の卒業生なら誰もがキラッと輝く素材は持っている。「おしよしがらず」堂々と発信する機会を作りましょう。青葉山の天空をトンビがゆっくりと大きな輪を描きながら翔んでいる。ピーッという鳴き声にイメージが膨らみました。皆さん、北社会は素晴らしい、同窓会の懇話会だと思います。全国でも数少ない、貴重な集まりです。より、多くの同窓の皆さんのお役にたつよう北社会を作り上げましょう！！と結びました。

そして、本日【2014年2月18日(火)北社会第317回】、10年が経ちました。私は北社会ニュースを作成して天空トンビの真似事を続けております。本日は第99号となりました。毎月、手打ちそば屋の忙しさの中でも、多くの同窓生からの情報その他のご援助を頼りに発光し続けております。そば屋に向かう道すがら今月は何をテーマにしようか、何を会員の皆さんにお伝えしようかと思いつく日も少なくありません。最近、新聞の人生案内に眼がいききました。その中に、「多くの会員の皆さんが前向きに気持ちよく動き、会を発展させるためには自分にできることは何かを考えること」とありました。

来月に北社会ニュースも第100号となります。会員皆さんのご協力で北社会300回記念誌も具体化されつつあります。一つの大きな節目を迎えつつあると思うようになりました。多くの会員の皆さんの大きな願いの一つが“かつてのようなより多人数の北社会”です。若手の皆さんがご努力できる環境作りをと！心底願う日々を迎えております。